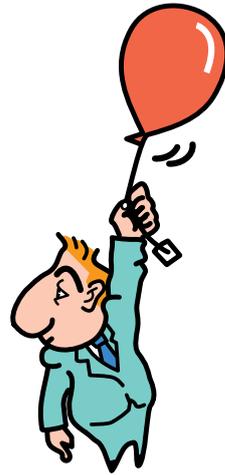


第五回

日本語スピーチ コンテスト

(テーマ)

- ① 日本って、どんな国？
- ② 現実化する気候変動に
思うこと
- ③ コロナ禍で思うこと



港ユネスコ協会

第五回

日本語スピーチコンテスト

日時	2021年12月12日(日) 午後1時30分～午後4時00分
会場	港区立男女平等参画センター リーブラホール
主催	港ユネスコ協会
共催	港区教育委員会
協力	玉川大学ユネスコクラブ

目次

1. ご挨拶
港ユネスコ協会会長 永野 博
2. 第五回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて
東京インターナショナルスクール理事長 坪谷 ニュウエル 郁子（審査委員長）
玉川大学教授 小林 亮（交流会企画実施）
3. スピーチ
 - ①Aibike Daiirbekova （キルギス共和国） 「What is Japan like to me?」
 - ②Janine Chon （韓国） 「どうして コロナがすきじゃないか」
 - ③Maya Olivia Wheeler （ニュージーランド/米国/日本） 「コロナ」
 - ④Luke Chon （韓国） 「ルークのジレンマ」
 - ⑤Tran Thi Bien （ベトナム） 「諦めない」
 - ⑥晨 黄 (Chen Huang) （中国） 「感謝の心」
 - ⑦Lkhagvasuren Javzmaa （モンゴル） 「コロナとわたし」
 - ⑧Sarah Emily Harrison （イギリス） 「本当に必要ですか？」
 - ⑨Pariyar Nabin （ネパール） 「すみませんと 200 円」
 - ⑩顔 金葉 (Yan Jinye) （中国） 「私が見た日本」
 - ⑪Nguyen Thi Mai （ベトナム） 「日本人は冷たい」
 - ⑫Jomok Sahra Sicilia （フィリピン） 「人生は前向きに進んで行こう」
4. 会場見学者とスピーカーとの交流会
5. 審査委員
6. 審査基準
7. 審査結果
8. 表彰式
9. 閉会の辞
港ユネスコ協会 田部 揆一郎
10. ひとこと
審査委員 新橋赤レンガ発展会役員 玉置 修次
港ユネスコ協会スピーチコンテスト委員会委員長 田川 純子

1. ご挨拶

港ユネスコ協会会長 永野 博

港ユネスコ協会は創立 40 周年を迎えましたが、この機会に第五回日本語スピーチコンテストを開催できたことを大変、嬉しく思います。昭和 56 年（1981 年）に設立された港ユネスコ協会は、当初より、平和を構築するというユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の理念を実現するため、異なる文化、価値観を有する人々との間の交流を促す様々な活動を推進してまいりました。

近年、海外からわが国を訪れる方が増加し、港区は国際都市といっても過言ではありません。それとともに日本語を熱心に学ぶ方も増えています。そこで港ユネスコ協会としては、一定のテーマを決めたうえで、これらの方々に日頃の日本語学習の成果を披露していただくとともに、スピーチをされた後で会場の参加者との間で小人数のグループによる討議を行い、交流を行っていただくという考え方のもとで日本語スピーチコンテストを行ってまいりました。



このスピーチコンテストは、出場者に年齢や日本での滞在期間などによる制限を設けず、どなたでも自由に参加することができます。このことが思った以上の効果を生み、コンテストの内容の多様性を深めてまいりました。それは、スピーチ終了後のグループ討議で生き生きと話す参加者の表情からもわかります。グループ討議は、玉川大学小林亮教授の率いるユネスコクラブの学生さんが手分けをしてファシリテーターとなり進めていただきました。これらの学生さんには特にお礼を申し上げます。今回のスピーチコンテストは港ユネスコ協会の創立 40 周年ということもあり、途中で 40 にかかわるゲームなども入れ、これまでと少し変わった和やかな雰囲気を作ることができました。

さて現実の世界をみますとミャンマーの軍部によるクーデター、ロシアのウクライナ侵攻など、ユネスコの掲げる理念とは逆の方向に向かっているように見えます。私たちはこれらを対岸の火事とみることなく、何をすればよいのかを真剣に考えていく必要がありますが、日本語スピーチコンテストは一つのヒントを与えているものと思います。

今回は新型コロナ感染症のもとで実際に開催できるのかなどの不安もありましたが、皆様のご協力により楽しい催しとすることができました。支援を頂いております港区教育委員会、また坪谷ニューエル郁子さんを委員長とする審査委員会、スピーカーと会場でご参加いただいたすべての皆様に心よりお礼申し上げます。

2. 第五回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて

東京インターナショナルスクール
理事長 坪谷 ニュウエル 郁子

さる2021年12月12日（日）、港区立男女平等参画センター内の「リーブラホール」にて第五回日本語スピーチコンテストが行われました。今回は港ユネスコ協会の40周年を記念する大会の位置付けということもあり、永野会長はじめ会員の皆さんは開催まで大変なご努力とご準備をなさっておられました。港区はご存知のように、住民の10パーセントが外国籍という環境であり、まさに多様性のある町であると言えます。私たち港ユネスコ協会は少しでも町を、東京を、日本を、世界をより平和により良くするために私たちでできることを一つずつ誠実にやっいていこうと日々努力をしている次第です。その中の大きな活動の一つがこの日本語スピーチコンテストの開催です。



今回のコンテストは、出身国の多様性のみならず6歳のまやちゃん、7歳のアイビケちゃんなどなど様々な年齢層のスピーカーを迎えることができました。時間の関係もあり、スピーカーの皆さんは総勢12名となりましたが、どのお話も素晴らしく全ての皆さんに優勝を差し上げたかったのが、審査員の気持ちでした。そんな中、最優秀賞はネパール出身のパリヤルさんでした。パリヤルさんが来日後新聞配達をしておられた時に、朝早くにパリヤルさんを待っていて「すみません」と声をかけてくれるご高齢の女性がおられました。そこからなぜ何も悪いことをしておられないのに、謝罪の言葉を言われるのだろう、を考えるようになったとのことです。その結果、朝早くに起きて家まで新聞を届けているパリヤルさんのご苦労とご努力に対して「そんな努力を私のためにしてくださり、ありがとうございます。ご苦労様。そしてすみません。」とそれら全ての気持ちが込められていることに気がつきました。そしてそこに日本人の深い「人を思いやる気持ち」「共生の精神」を発見されたのです。私はこの話を聞きながら涙が出てきそうになりました。世の中はコロナにより、人との会話がままならない中、私たちの寄り添って生きるという生き方に「すみません」の一言から気がついてくれたことに感動いたしました。

それ以外にも「感謝の心」を話してくれた黄さん、「人生は前向きに生きていこう」と勇気づけてくれたシシリアさんなどなど全ての皆さんのお話は本当に、本当に「素晴らしい」の一言でした。スピーカーの皆さん、どうもありがとうございました。

最後にこのコンテストの開催にご協力をいただいた全ての皆様に心より感謝を申し上げます。そしてまた今年の暮れに皆さんと第六回スピーチコンテストでお目にかかれることが楽しみでなりません。

異文化理解のための持続可能な平和イベント
－ 「第五回日本語スピーチコンテスト」 に参加して －

玉川大学教授（玉川大学ユネスコクラブ顧問）
小林 亮

港ユネスコ協会が 2017 年から毎年継続して実施してこられた「日本語スピーチコンテスト」も5回を数えるに到りました。2021年12月12日に港区立男女平等参画センターで開催された「第五回日本語スピーチコンテスト」は、9か国から12名のスピーカーが登壇され、それぞれとても興味深い内容の日本語スピーチを披露して下さいました。とくに今回は6歳から34歳まで多様な年齢層の方々がスピーカーとして話題提供をして下さったことに特徴がありました。まさに全世代型のイベントとしての成果が示されたわけです。登壇者12名中4名が12歳以下の児童の方々というユニークな構成でしたが、ユネスコの新しい枠組み「ESD for 2030」においても優先課題として「ユースへの権限付与」が謳われています。年少の方々に積極的に発信の機会を提供することは、持続可能な未来の担い手育成という観点からも、まさにSDGsの精神に沿った見識ある取り組みであると実感しました。



私は玉川大学ユネスコクラブの3名の学生とともに、第二部「スピーカーと見学者との交流会」でのファシリテーターを務めさせて頂きました。どのグループにおいても、スピーカーと参加者の方々との間に、和やかで友好的な雰囲気の中、お互いの生活実感やカルチャーショック、コロ



ナ禍での苦労話などを含む「ホンネの交流」が行われていたのが印象的でした。短時間でしたが、互いの異文化理解を深める意義深い交流になったと思います。

ユネスコがさまざまなプログラムで強調している平和構築の基礎としての異文化理解の学びは、港ユネスコ協会の「日本語スピーチコンテスト」において、最良の形で実現していると思います。これが実現できている秘訣の一つは、スピーカー、審査員、ファシリテーター、参加者を含む全ての方々がそれぞれ「主役」としてイベントに参加できる配慮がなされているからではないでしょうか。人間にはみんな社会的承認欲求があります。私たちが生きがいを持って生活するためには、社会から支援を受けるだけでは十分ではありません。自分が主役になれる場、人から承認、尊敬してもらえる場が必要です。今回も全員のスピーカーに賞が授与されたことから分かるように、日本語スピーチコンテストが満足度の高いイベントであるのは、やはり参加者全員が尊重され、役割と承認を与えられているからではないかと思います。「誰一人取り残さない」というSDGs のモットーとも通底する港ユネスコ協会のこうした姿勢は、ひいては世界全ての国、民族、文化そして個人の尊重という地球市民的な精神にもつながっていくものだと思信しています。

コロナ禍だけでなく、気候変動や戦争など危機的な現実直面する現在の世界にあって、ユネスコ精神の根幹をふまえながら異文化間・異世代間の対話に向けた貴重な交流の場を実現して下さっている港ユネスコ協会の皆さまの創意と情熱に心からの敬意を表します。

3. スピーチ

① “What is Japan like to me?”

Aibike Daiirbekova (アイビケ ダイルベコヴァ)

日本は私の友達で、日本にはたくさんの友達がいます。

私にとって日本は心の発達です。なぜなら、ここで私はたくさんの発明を学んだからです。

接着剤でヘアクリップを作る方法、スティックで常夜灯を作る方法、箱から出してギターを作る方法などを学びました。

サーモンとチーズでご飯が美味しいのでお寿司が大好きです。

動物園にいて、コイや動物に餌をやるのが好きでした。

日本では、学校の初日があり、それから怖くて勇気を出して授業に行きました。

学校ではさまざまな科目がありますが、私のお気に入りには体育と音楽です。体育では、私たちは強くなります。私たちは音楽で自分のメロディーを作曲することができます。

キルギスタンに戻って、放課後の友達と遊んだことを心から覚えています。どんな美しい公園がありますが、何よりも、誠実な人々です。日本は私の心の中で永遠に私の第二の故郷になりました。



② 「どうして コロナが すきじゃないか」

Janine Chon (ジャンニン チョン)

こんにちは みなさん。

わたしは アメリカンスクール3ねんせい の ジャンニン チョンと もうします。

わたしは まい日 学校にいけるようになって とてもうれしいです。きょねん コロナで学校に いくことが できませんでした。Distance Learning をしました。

Distance Learning では先生やともだちとスクリーンをとおしてはなさなければなりません。

まいにち せんせいが べんきょうのリストをつくりました。そして、それを せんぶ おわらせなければなりません。

わからないとき だれもおしえてくれるひとが そばに いませんでした。

学校に いったら、ともだちにきくことができます。でもスクリーンのまでは はなすことが みんなに きこえないし、おしゃべりが できませんでした。



めのまえに ともだちが いるのに さわることも できませんでした。Distance Learning はとても つまらなかつたです。やすみじかんも ないし、ともだちとあそべないからです。それに だいすきな ブランコも できませんでした。

Distance Learning の あいだ、わたしは うちで、あそんだり、本を よんだりしました。うちで べんきょうするのは ほんとうに おもしろくないです。

ことは コロナが すくなくなつて、やっと 学校に行くことができるようになりました。マスクを つけなければなりません。 ランチのときは はなしてはいけません。

いろいろ コロナのためのルールが あります。でも、せんせいや ともだちに まいにちあうことができます。

おはなしも できます。あそぶこともできます。とても たのしいです。

コロナは とてもこわいですが、コロナのおかげで がっこうが たのしい ところだとわかりました。

③「ころな」

Maya Olivia Wheeler (マヤ オリヴィア ウィーラー)

こんにちは みなさん。

わたしのなまえは

まや ういーらー です。

きょねん ころなでがっこうに いくことができませんでした。ちょっとだけ かなしかったです。

うちでは れごで あそびました。ほんをよみました。
あいすくりーむを つくりました。

たんじょうびに ともだちを よべませんでした。ぼけもんほてる と ぼけもん かふえに
いくことが できました。

ことしは がっこうに いく
ことができます。 わたしが
すきな すいみんぐが でき
ます。みんなと あそべま
す。みんなで らんちを た
べられます。 やすみじかん
に とうきょうたわーを し
てあそべます。



ますくを しなければなりま
せん。 でも がっこうに
いって ともだちや せんせ
いに あえるのが とてもた
のしいです。

もう ころなが なくなって ほしいとおもいます。

④「ルークのジレンマ」

Luke Chon (ルーク チョン)

こんにちは みなさん。
ぼくは アメリカン スクール 6年生の ルーク チョンともうします。

アメリカ ジョンス ホプキンスだいがくの しゅうけいによると 11月09日げんざい 2
おく5せんまん人の人が コロナに かんせんして、ししゃは るいけい 505まん人にた
っしました。

とても おどろきの すうじですよ！

きょねん コロナが はじまったとき こんなふうになるなんて
だれも そうぞうできませんでした。

ぼくは コロナで せいかつが どうなったかをはなしたいと おもいます。
きょねん コロナのあいだ 学校に いくことができませんでした。

小さい i-pad で distance learning をしました。

いちにちじゅう スクリーンを見て、べんきょう しなければならなかったのも、めがしばしばして、あたまもいたくなりました。しゅくだいをやるのがたいへんでした。Group work もできませんでした。たのしみにしていたフィールドトリップもキャンセルになりました。ぼくはすいえいやテニスやサッカーの練習がだいすきですがぜんぶキャンセルになってなにもできませんでした。ともだちとはビデオコールでしかあえなくなりました。

ぼくは毎年夏は韓国とハワイですごしていました。

韓国ではしんせきにあって、えいがを見たり、ボーリングをしたり、たっきゅうをしてたのしくすごしました。ハワイではおいしいものを食べて、きれいな海でおよいだり、すなのおしろをつくったりしました。でもこの2年間コロナのために、行くことができませんでした。今年はやっと韓国にかえることができました。でも、とてもいたいPCRけんさをしたり、2週間のかくりせいかつをおくらなければなりません。せっかくかえたのに、おきにいのレストランに行くことができませんでした。コロナでへいてんしていたのです。



コロナでもうひとつたいへんだったことがあります。それはしょくじです。

ぼくのうちは7人かぞくで、お父さんもお兄さんもみんなうちでしごとやべんきょうをしていました。かいものにいけないので、しょくじはあぶらっぽいUber Eatsがおおかったのです。1回や2回のUber Eatsだったらいいのですが、それが、しょっちゅうだと、「またか!」と思ってしまいます。

ことはやっとコロナがおさまって、学校にいけるようになりました。

しょうどくをしたり、マスクをつけたり、ソーシャルディスタンスをとったりしなければなりません。ランチのとき、8人のテーブルに4人しかすわれません。いろいろなこまかいきそくがあります。また、ぼくは12さいになったので、ワクチンをうたなければなりません。ワクチンをうった人のはなしではきんにくつうやねつがでたりするそうです。だから、とてもこわいです。

でもこのコロナのおかげで、「学校にいけること」がどんなに「すばらしいとっけん」かということを目にみてもわかりました。

⑤「諦めない」

TRAN THI BIEN (トラン ティビエン)

皆さん、誰でも知っていると思いますが、現在、コロナは一国だけでなく、全世界で大きな問題となっています。

コロナの影響で、私たちの生活には、多くの変化がありました。毎日、マスクをしたり、授業がズームになったりしました。それだけでなく、「新しい生活」がはじまって、いつもとは全然違う生活が続いています。遊びに行くこと、会話をする、様々なことが制限されました。大変なのは、生活だけではなく、勉強するやる気もなくなりました。いつも将来の心配がなくなりません。

このような気持ちを経験しているのは、私だけではなく、世界中の人々、留学生も同じだと思います。コロナの影響は、経済的なものだけでなく、精神的な危険を人々に与えました。悪いことばかり、思い浮かびます。でも、コロナが私たちに与えたのは、悪いことばかりでしょうか。私がコロナから学んだことは、夢の実現のためには、諦めてはいけないということです。



私は、高校生の時から、日本で勉強して、仕事してみたいと思っていました。だから、高校を卒業したあと、ベトナムにある日本語センターで勉強しました。その時、絶対日本へ留学するんだという気持ちを持っていました。しかし、勉強し始めて約半年後、コロナが始まりました。そして、感染者がだんだん増え、留学ができない状況になってしまいました。家族の収入も少なくなり、私の日本留学を応援してくれていましたが、学費を払ってもらうことに心苦しい気持ちがありました。日本へ行っても、アルバイトができるわけではないし、日本語の勉強も難しいし、日本での生活は今以上に大変になる。私はこれから、どうしたらいいのだろうと考えました。コロナはいつ終わるのか。私たちの生活は、どうなるのかという心配もありました。

悩む私を見て、家族は、「あなたの夢を叶えて」と、たくさん応援してくれました。だから私は、去年の12月、日本に来ることができました。

外国の生活は、想像以上に大変でした。家族と離れて初めてする生活。同時に、緊急事態宣言も出ました。アルバイトもないし、国から持ってきたお金も少しずつ減っていきます。心配しかありませんでした。

困難に直面した時、自分は今、何をしたらいいのかと分からなくなりました。弱気になる私に、家族はいつも電話で「がんばって」「夢を応援しているよ」と言ってくれました。毎日、家族が応援してくれました。

「家族も自分も、元気だ。命がある。応援してくれる、家族のために頑張りたい。」と思うようになり、自分の人生を考えました。

「今日頑張れば、明日はもっとよくなる。」そう信じて、もう一度、目標をもって、頑張ろうと思いました。そして、現実を見て、勉強と学費のバランスを取る方法を考えました。

その時から、私は、自分の夢を諦めず、勉強を頑張っています。学校を欠席したり、遅刻したりすることはありません。家族は、今も大変です。落ち込む時、いつも私は、目標を忘れないようにしています。これからも何があっても諦めなで、頑張っていこうと思います。

⑥「感謝の心」

Chen Huang 晨 黄(シン コウ)

2018年4月、私は仕事で来日し、日本での暮らしが始まりました。それから毎日が夢のように楽しくて、仕事も順風満帆。言ってしまうえば、水を得た魚のごとく幸せな日々を送っていました。

でもわずか二年も経たない内に、グローバルパンデミックが発生し、世界の形を決定的に変えてしまいました。たくさんの仕事が失われ、たくさんの会社が倒産し、尊い命がたくさん奪われました。

それから私を待っていたのは退屈極まりない自粛の日々でした。

終わりのない緊急事態宣言、次々と過去最多を更新していく感染者数、楽しいどころか、国全体が恐怖とパニック状態に陥りました。せっかく日本で新しい人生を始めようとしたのに、私の人生、なんてついてないだろうと悩みに悩みました。在宅勤務で人にも会えなくなり、心も体も病んでしまいました。楽しいはずの日本生活が剥奪された私は毎日愚痴をこぼしていました。

そんな私をがらっと変えてくれたのが稲盛和夫さんの本「こころ」でした。

「良いことが起きた時も、悪いことが起きた時も、感謝の心でいよう」って私は稲盛さんの言葉を実践してみることにしました。

すると、少しずつ、すべてのことに感謝してみることにしたのです。

コロナがもたらしたのは、悪いことばかりではありません。

みんな不要不急な移動がなくなったので、二酸化炭素は削減し、地球は暫しの休みを取れたでしょう。

コロナで会社が在宅勤務になり、時間の余裕ができ、やりたいことができるようになりました。

コロナで外出しないかわりに、友達とこまめに連絡するようになり、友情が深まりました。このようにポジティブなことを考えると、気持ちぐっと明るくなり、自粛生活もだんだん楽しくなってきたのです。

私たち人間はいいことが起きてそれが当たり前だと思い、悪いことが起きたらすぐ愚痴を言いたくなりがちです。でも一方悪いことが起きなければ、いつまでも感謝の心が芽生えてきません

皆さんこの漢字「難」なんと読みますか？

はい、なんと読みます（笑）

そして、「無難」これは？ 難がない、無難な人生は面白くないよね

一文字変えて、「有難」これはどうでしょうか？

「ゆうなん」ではないですよ（笑）どっかで見たことありますよね？そう、「ありがたい」です。難があるのに、ありがたいと考える日本の文化はすごいと思いませんか？災いも時には私たちの心を鍛えてくれて、有難いわけです

実は私はコロナで一つの趣味が増えました。それは和歌を書いてみることです。まだまだレベルが足りないが、一つだけ皆さんに共有したいと思います

猛威振るう
コロナの壁を
乗り越えよ
人ごころこそ
勝つものなけれ

ありがとうございました！



⑦ 「コロナとわたし」

LKHAGVASUREN JAVZMAA(ラグハスレン ジャブザマ)

「わたし、陽性だったの」
それは、私を変える電話でした

私はこれまで、何も気にせず生きてきました。私と私の家族は、コロナに感染しないと根拠もなく信じていたのです。社会的な問題や他の人のことは、私とは、遠いことだと思いながら、これまで生きてきましたが、それは、大きな間違いでした。姉がコロナに感染したからです。

姉がコロナに感染したことで、今まで他人事だった社会的な問題や出来事が、一気に身近になりました。世の中の出来事が身近になり、今、社会で、どんなことが起きているのか、どのようなことが進み、どんな問題があるのかを考えました。

約 500 万人。これはコロナで命を失った人の数です。モンゴルの全人口より多い数です。調べて初めて知ったことです。もっと早くに気がつくべきだったと思いました。

一つの国がなくなるくらい大きなことだったのに、無関心だったことを恥じました。その時から、私はどこにいてもちゃんと消毒したり、ワクチン接種をしたりするなど、感染対策に対して積極的な見方をするようになりました。自分を守ることは、周りの人を守ることにつながり、それが社会のためになると気がついたからです。

私の知り合いの中には、コロナはたいしたことじゃない。感染は収まって来ているんだから、マスクを外したり、友達と自由に遊びに出かけようとしたりする人もいます。私も、たまにそうしたいと思うことがあります。コロナがなかった時のように、気軽に外に出て、遊びたい。マスクを外して、空気をいっぱい吸いたいと思います。でも、コロナは何百年も続くものではないと思います。コロナの感染を止めるために、今、できること、頑張れることがあるのではないのでしょうか。それが、明日につながります。

私は、ただの学生にすぎませんが、亡くなる人の数を減らすための行動ができます。今、世の中で問題になっていることなので、不便でやりたくないと思うことでも、それが自分にできることで、周りの人を守ることにつながるのであれば、するべきだと思います。どんな問題も小さなことから始まります。だからこそ、私たちも小さなことから解決に向かって行動すれば、いつかどんな問題でも解決につながるはずです。

最後に皆さんに伝えたいことがあります。

コロナによって、多くの人々の生活が変わりました。ある人は仕事を失い、ある人は、ずっと忙しくてできなかったことを時間ができたために実現できたり、ある人は大切な人を失い、ある人は不平等にあたりました。コロナに感染したら、風邪と違って、自分だけのことではなくなります。同居している友達、クラスメイト、アルバイト先、多くの人を巻き込みます。多くの人やところに影響を与えるコロナウイルスから、私は、「人というものを作ったり、育てたりするのは、家族だけではないこと。私たちの周りにいる人々やモノなど、すべてが私たちに関係があること。その中で私たちは生きているのだ」ということを学び、考え方の面で成長できました。だから、もし世の中のどこかで、私と同じように世の中の出来事を「自分とは関係がない」と考えている人がいれば、「一度だけでもいいから、周りを、人をよく見てください。」と言いたいです。



「誰かの問題」ではなく、「私たちの問題」と言えるようになれば、どんな問題でも他人事とは思えなくなるはず。私」の問題だと考えるようになります。

コロナは、自分中心だった自分を気づかせ、考え直させてくれました。

みなさんは、コロナウイルスから、どんな影響を受けましたか。
ご清聴ありがとうございました。

⑧「本当に必要ですか？」

Sarah Emily Harrison (セーラ エミリー ハリソン)

みなさんの何人がスマホ、タブレット、パソコンを所有していますか？使っていないノートは？3着くらい同じようなスカートを持っていませんか？現代社会には当たり前ですね！日本、特に東京は買い物好きの人の天国です。いたるところに、素敵な商品がたくさんあります。でも、商品が多すぎると思いませんか？本当にこれほどたくさん必要でしょうか？今年の11月、イギリスで開かれた第26回国連気候変動に関する会議で、いろいろな協定が結ばれました。電気自動車、再生可能エネルギー、森林破壊に対する協定。。。しかし、ある話題は論じられませんでした。それは大量消費です。

実は、先進国の人のために必要ではない商品を作るために、膨大な量のエネルギーと資源が使われています。買い物天国のために恐ろしい代償が払われています。そういった状況の中で、どんな商品が必要か、どんな商品が必要ではないかと最近考えています。東京のお店を見てまわると、たくさんの無用な商品を見つけることができます。今日は、いくつかの具体例を持ってきました！

1つ目の例は「卵のプッチン穴あけ器」です。卵に穴を開けると、皮をむきやすくなると書いてあります。でも、前回卵の皮をむいた時、これを使わなくても問題なくできました。確かに、ちょっと便利ですけど、本当に必要でしょうか？

2つ目の例は「全身美容ローラー」です。花のデザインが可愛いですね！説明には、このローラーを使うとスタイルが良くなる、と書いてあります。でも、効果がないだけではなく、女性が自分の体を変えなければならないというプレッシャーを与えます。全然必要ではないです。



3つ目の例はミニチュアの芝刈り機です。やっぱり、面白いですね！ガチャガチャで買いました。説明には、「本物同様に再現されています」と書いてあります。でも、どうして？なんの目的がありますか？確かに面白いですが、本当に必要でしょうか？

この3つの他にも、数え切れないほどの例があります。では、どうすれば大切な資源を無用な商品に浪費することを防ぐことができるでしょうか？まず、私たちは自分の生活習慣についてよく考え、その商品を買わないという選択ができます。需要がなければ供給もありません。しかし、今の世界の経済システムは、大量生産・大量消費の前提に基づいています。地球の資源を守るには、各国の政府は経済の機能の仕方について、根底から考え直さなければなりません。

地球の人口が増え続けていて、今までの生活が続けられないことは明らかです。この難しい問題を解くことは避けては通れないのです。

⑨「すみませんと 200 円」

PARIYAR NABIN (パリヤル ナビン)

「日本はどうですか。」

日本にいる外国人にとって、この質問はよく聞かれる質問じゃないでしょうか。

私も日本に来て、もうすぐ1年になりますが、今までに何度も聞かれた質問です。私は、サンケイ新聞の奨学金で日本に来たネパールの学生です。今、新聞配達をしながら、日本語学校に通っています。ある日の朝、新聞を配達している時、庭仕事をしている70歳くらいのおばあさんに会いました。私は、「おはようございます。」と言いながら、そのおばあさんに新聞を渡した時、「すみません。おはようございます。」と言われました。

その時、私はまだ日本に来て2か月しか経っていませんでした。日本語も少ししかできませんでした。日本語学校では、「すみません」は、謝る時や人を呼ぶ時に使うと習いましたから、「すみません」の意味は分かっていましたが、なぜおばあさんが、何も間違えてないのに私に「すみません」と言うのかわかりませんでした。だから、私は、顔が固まり、緊張した声で「はい。」と言いました。そんな私を見て、「どこから来ましたか。」と聞かれたので、「ネパールから来ました。」と答えました。すると、おばあさんは、「そうですか。夜中から朝まで配達するのは大変ですね。外国人なのに、よく頑張っていますね。」と言われました。わたしは、なんと答えたらいいのかわからなくて、「はい。」とだけ答えました。その姿を見て、おばあさんは、「悪いけど、ちょっと待ってね。」と言った後、1分ほど家に入って、戻ってきました。そして、私に「コーヒーでも飲んでね。」と「200円」を渡してくれました。最後に「気を付けてね。風邪を引かないように。」と言って、家に入っていました。

私は、驚きました。でも、親切にしてくれたおばあさんを見て、急に自分の親のことを思い出しました。その時の気持ちは、言葉に表すことができません。今でもどうやって伝えたらいいかわかりませんが、私は泣きたいような気持ちになりました。新聞配達をすることは、新聞社で働いている人にとって、当然のことです。

何も間違いがないのに、おばあさんが「すみません」と言ったのは、どうしてなのかわかりませんでした。しかも、コーヒーを飲むようにと200円、くださいました。

私は、新聞配達後に「すみません」の意味を考えました。そして、気がつきました。おばあさんは、自分のために夜中、新聞配達をしてくれている私に感謝を伝えてくれたのだと。そして、そのことが私に迷惑をかけていると思ったのだと。

自分だけじゃなく、周りの人のこともよく考える親切なおばあさんのやさしさに触れて、自分がよければいいと考えていた私も、今、周りの人にできるだけ迷惑をかけないようになったと思います。

日本に来て、知らない人である私に対して、親切にしてくれたおばあさんと会ったことで、本当に「日本人は優しいなあ」と思いました。

私は日本に来て、もうすぐ1年になります。日本へ来た理由は、もちろん、勉強するためですが、この1年の短い間で、勉強だけでなく、人としてやらなければならない多くのことを学びました。そして、「日本と日本人はどちらですか」と言う質問に答えられるようになりました。これから、何年間日本に住むかはわかりません。



でも、ここにいる時に学んだことを忘れずに自分の人生に生かして、頑張っていきたいです。

⑩「私が見た日本」

YAN JINYE 顔金葉 (ガンキンヨウ)

私が留学生として日本に来てから1年が過ぎました。そして、意外にいろいろな面白いことを発見しました。その中で一番驚いたのは、やはりアニメの事です。

私は日本のアニメが好きで、日本に来ました。だから、他の文化や景色より、アニメのことを最も気にしています。日本に来る前は、日本人は全体的にマンガやアニメのことが好きだと思っていました。しかし、日本に来て、少し違うと思いました。多くの人が「ワンピース」や「ナルト」さえ知らないことに、本当に驚きました。

私はいつも「ワンピース」のグッズを持っているのですが、アルバイトの同僚は、「これ誰ですか。」とよく聞かれます。何人も同じ質問をします。たぶん、あまりアニメを見ないのでしょう。

中国では、「ワンピース」や「ナルト」というアニメは、若い人達の中で、結構人気があり、知らない人の方が逆にめずらしいです。日本ではコンビニやスーパー、テレビのCMなど、商品の宣伝や広告を通じて、どこにいても、どこを見てもアニメやマンガのキャラクターが出てくるので、気がつきにくいということはないと思います。それなのに知らない人が多いのは、とても不思議です。

それに最近、初音ミクのようなバーチャルアイドルが流行っています。アニメや漫画、バーチャルアイドルの世界で日本は第一位なのは間違いないです。私は、「ワンピース」や「ナルト」を知っていた友達やアルバイト先の同僚と、日本はアニメ文化が発達しているのに、どうして好きな人が想像より少ないのかと考えました。

考え着いたのは、両極文化だということです。つまり、アニメが好きな人は、すごく夢中になりますが、それに対して、アニメに興味がない人は、めったにアニメを見ないということです。

中国と日本を比べて、その違いについても考えました。圧倒的に多くの中国人は、子供の頃からアニメを見ます。その中で、一番多いのは、やはり日本のアニメです。しかし、中国人は見るだけです。原作マンガやグッズなどを買う人は、驚くほど少ないです。言い換えれば、たとえ好きなアニメのグッズを見ても、買う人は少ないということです。

反対に日本は、好きなキャラクターの誕生日祭壇を作ってお祝いをします。アニメのグッズを集める人をよく見かけます。それだけでなく、池袋の乙女道や渋谷の街で「痛バック」と言われるバッグを使う人もたくさん見かけます。中国でも見かけますが、日本と比べるとずいぶん少ないです。しかし、大きな違いは、中国人はアニメのことをたくさんしゃべりますが、そうする日本人は少ないということです。これは、とても面白い事情ではないでしょうか。



日本に来て、アニメやマンガに対する日本人の接し方を見て、日本に来なければ分からなかった日本の面白いことを知ることができました。これからも、日本にいなければ分からない日本のことをもっと知っていこうと思っています。

⑪ 「日本人は冷たい」

Nguyen Thi Mai (グエン ティ マイ)

「日本人は冷たい。」初めて、日本に来た時、私の国と違うことを一番強く感じました。日本語がうまくできなくて、電車の乗り方も分からなかった私は、初めて日本に来た時、本当に困りました。その時、周りの日本人に「すみません。」と何度も声を掛けましたが、みんなが手を振ったり、かぶりを振ったりして、誰も助けてくれませんでした。

「どうして、日本人はこんなに冷たいのですか。」と理解できませんでした。

始めは、日本人は悪いことをされるのを恐れているので、ベトナム人の私に対して「冷たかった」のかと何回も考えました。

それで、知り合いになった日本人に尋ねてみました。すると、「日本人は近所の人とは、あいさつするけれど、見ず知らずの人に声をかけると警戒する」と教えられました。なるほど、と納得しました。

日本人は「冷たい」というより、トラブルを避けるために知らない人と話さないことがわかりました。それは、確かに安全です。

なぜなら、初めて会う人は、私が良い人か悪い人かを知らないし、話しかけるふりをして、何か悪いことをするのではないかと思われるかもしれませんが、ありません。

それに、私は、外国人なので、警戒心は日本人が話しかけるより大きくなるでしょう。最近、詐欺も多いので、気を付ける必要もあるでしょう。また、日本人は時間をとても大切にしていますから、電車や約束の時間に遅れないように、いつも急いでいます。だから、道を尋ねても、時間をとって、丁寧に教えてもらえないのかもしれないかもしれません。



しかし、緊急事態や必要な時に、周りの人が助けてくれないなら、困ったことになるのではないでしょう。

他人が困っている時に助けなければ、自分が困った時に、誰も助けてくれないのではないのでしょうか。でも、日本人と仲良くなったら、日本人は優しいと思うようになりました。

アルバイトや生活で、いろいろ困っていることがあります。日本人の知り合いは、熱心に手伝ってくれます。だから、「日本人は、冷たいばかりではない」ということは理解していますが、それは、知り合いになったからです。

私は、今、日本で勉強していて、留学生活を楽しむため、いろいろな国の友達、日本人の友達を作りたいと思っています。ですが、「冷たい日本人」と、どうやって友達になれるのかが、いまだにわかりません。

日本人のみなさん、誰でもいいです。「こんにちは」「すみません」と、外国人が声をかけた時、日本人と同じように対応してください。返事をしてください。返事があることは、嬉しいことです。

見ず知らずの国で、親切にしてもらえたら、もっとその国のことが好きになります。出会いが生まれます。見ず知らずの日本人でも、親切だなあと思う日が来ることを楽しみにしています。来年は、大学生です。周りを見ず知らずの日本人ばかりです。でも、たくさん友達を作りたいと思っています。だから、私は、初めましての人でも、恐れず、自分から声をかけていこうと思っています。

⑫「人生は前向きに進んで行こう」

Jomok Sahra sicilia (ジョモック サラ シシリア)

私は、生まれも育ちも日本です。出身は、茨城ですが生粋のフィリピン人です。私は、二つアルバイトをしています。ガソリンスタンドとエステサロンで事務員をしています。

日本には小学4年、十歳までいました。日本の学校が大好きで友達と楽しく遊びました。私にとって日本は故郷だと思っていました。しかし、ある事情でフィリピンに帰国しなければならなくなりました。私は、絶対に帰りたくなかったのに。幼かった私は、何も分からず母国に住み、学校ではタガログ語も英語も話させないのでクラスメイト達と仲良くなれなくてとても辛い思いをしました。その頃の私は、母に早く「日本に帰ろう」とねだっていました。フィリピンに帰国後は母国語を話せるようになりました。フィリピンには高校がなく自分の希望する大学に行きました。



しかしながらまた、母の仕事の都合で日本に戻る事になってしまいました。私は、もう日本に戻りたくなかったです。せっかく、母国の生活に慣れて落ち着きたいと考えていたのです。ですから母にどうしても日本に行かなければならないと言われて八年ぶりに日本に戻ってきました。そして東京に住み、環境が一変し、また初めから生活することは本当に大変でした。

私が日本で大学を続けるために単位不足を補い高卒が必須でした。その為、21歳で夜間定時制高校に4年間通う事になりました。私は、日本語に自信がなく色々悩みました。でも、久々の学校が嬉しくすぐに慣れて授業の難しさは先生が助けてくださり友達もできました。お陰様で今は学生生活が充実していて楽しい日々を送っています。私は、現在23歳の高校生です。卒業は再来年です。卒業後は専門学校で更に英語を勉強します。何故ならば自分の英語力を活かせる仕事に就きたいと考えているからです。

小さい頃は国籍コンプレックスを持ったりしましたが、日本とフィリピンの生活の経験がありますので、それが私の個性で武器でもあると気付かせてくれました。ありのままの自分で良いのだと学んだのです。今の自分を全て受け入れ、2カ国での貴重な経験を活かして前向きに進んで行こうと決心しました。

これが私の人生で私自身、私の物語なのですから。

I'm gonna move forward. Because this is me, this is my life, and this is my story.

4. 会場見学者とスピーカーとの交流会

玉川大学小林亮教授のご指導のもと、玉川大学ユネスコクラブの学生の協力により、参加者が4つのグループに分かれ、それぞれスピーカーを囲みながら、文化や習慣の違いからくる面白い経験や苦労話等についてお話をしました。



5. 審査委員

審査委員長	坪谷 郁子	東京インターナショナルスクール理事長
審査委員	横井 彩	国連大学サステナビリティ高等研究所事務総括
審査委員	河本 良江	港区教育委員会
審査委員	玉置 修次	新橋赤レンガ発展会役員
審査委員	永野 博	港ユネスコ協会会長



6. コンテストの審査基準

1. 自分の思いや考えが伝わってくるか
2. 未来に向かって頑張る姿勢が伝わってくるか
3. 日本人や日本文化に対する新鮮な見方、考え方があるか
4. 異文化に対する理解の有無
5. 感動できる内容
6. 全体的印象として、態度、発音、コミュニケーション

7. 審査結果

坪谷郁子 審査委員長より、以下の通り受賞者の発表が行われました。

最優秀賞	Pariyar Nabin
港ユネスコ協会会長賞	晨 黄 (Chen Huang)
港区長賞	Sarah Emily Harrison
審査員賞	Jomok Sahra Sicilia
優秀賞	Nguyen Thi Mai
優秀賞	顔 金葉 (Yan Jinye)
優秀賞	Lkhagvasuren Javzmaa
優秀賞	Tran Thi Bien
優秀賞	Luke Chon
優秀賞	Maya Olivia Wheeler
優秀賞	Janine Chon
優秀賞	Aibike Daiirbekova
会場特別賞	Sarah Emily Harrison

8. 表彰式

「最優秀賞」の受賞者には 坪谷郁子審査委員長より、賞状とカップが 授与されました。



最優秀賞



審査員賞 協会会長賞 港区長賞



9. 閉会の辞

港ユネスコ協会
田部 揆一郎



先ずは、スピーカーの皆さん、とてもいい内容のお話を、上手な日本語でお話しいただき、誠にありがとうございました。とても素晴らしかったです。

これからも皆さんが、日本で充実した日々を送られ、またたくさんの楽しみを見つけられることを祈っています。

また将来は、皆さんが皆さんのお国と日本との貴重なかけ橋、絆になっていただき、日本との親密な関係が深まることを期待しております。

本日はまた、審査員の皆さま、小林先生をはじめとする玉川大の皆さま、そしてご来場の皆さま、皆様のおかげで大変充実した日本語スピーチコンテストになりました。ここに厚く御礼申し上げます。

来年もまた、この時期に同じような日本語スピーチコンテストを行いたいと思っておりますので、引き続きご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

10. ひとこと

審査委員 新橋赤レンガ発展会役員
玉置 修次

何かのご縁で貴協会主催の日本語スピーチコンテストの審査員の依頼をお受けして以来、5年程大役を努めさせて頂きました。

平素はあまり御見掛けしない若い外国の方々の活潑な意見にとても感銘を受けました。

外見や言葉、文化が異なってもそれをお互いに認め合う事で、一層仲良くなり、理解し合えると云う事を実感致しました。

これからも一層、海外の若い人達との交流が深まり、世界の平和の礎が、更に強固に保たれますよう、貴協会の発展を念願して居ります。



港ユネスコ協会スピーチコンテスト委員会委員長
田川 純子

日本語スピーチコンテストも第5回となりました。昨年に引き続き大ホールでの開催です。港ユネスコ協会は1981年に設立され、今年で40周年となります。思えば、40年前イギリスのチャールズ英皇太子とダイアナ妃の婚礼がありました。その時まさに港ユネスコ協会も誕生し、先輩方がひとつひとつ地道に苦勞を重ね、この「日本語スピーチコンテスト」もこのように盛大に行うことができるようになりました。



私共の「相互理解を深めコミュニケーションの分野で国際平和の促進」に少しでも近づくべく、これからも回を重ねていく所存です。

末筆ながら、ご支援いただきました、港区教育委員会をはじめとする皆様のご協力に感謝申し上げます。



港ユネスコ協会

港ユネスコ協会 検索

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3

電話：03-3434-2300

受付時間：火曜日～金曜日（祝日を除く）



16-3, Shimbashi 3-chome, Minato-ku, Tokyo 105-0004, Japan
(Minato-city Lifelong Learning Center)
Tel (03) 3434-2300
Open 10:00 to 17:00, Tuesday through Friday
(closed on national holidays)

ユネスコとは：国際連合の専門機関の一つ、国際連合教育科学文化機関
(United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization)
のことです。

港ユネスコ協会は、港区を拠点とし、ユネスコの理念に賛同して教育、文化
にかかわる様々な活動を行っています。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



MINATO